

証券コード 3667

(発信日) 2026年3月6日

(電子提供措置開始日) 2026年3月2日

株 主 各 位

東京都港区六本木六丁目1番20号

株式会社 enish

代表取締役社長 安 徳 孝 平

第17回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第17回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の当社ウェブサイト「第17回定時株主総会招集ご通知」として掲載しておりますので、以下のウェブサイトへアクセスの上、ご確認くださいませようお願い申し上げます。



当社ウェブサイト <https://www.enish.jp/>

(上記ウェブサイトへアクセスいただき、メニューより「IR」「株式情報」「株主総会」を順に選択いただき、ご確認ください。)

また、電子提供措置事項は、当社ウェブサイトのほか、東京証券取引所（東証）のウェブサイトにも掲載しておりますので、以下よりご確認ください。



東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

(上記の東証ウェブサイトへアクセスいただき、「銘柄名（会社名）」に

「enish」又は「コード」に当社証券コード「3667」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認ください。)

なお、当日ご出席されない場合は、インターネット又は書面（郵送）によって議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討の上、2026年3月23日（月曜日）午後7時までに議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

なお、議案の賛否に関わらず、議決権を有効に行使していただいた株主様へ、500円相当のクオカードを後日お贈りさせていただきます。なお、クオカードの金額は議決権の数に関わらず一律500円相当といたします。

敬 具

記

1. 日 時 2026年3月24日（火曜日）午前10時（受付開始 午前9時30分）
2. 場 所 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号
イベントスペースEBiS303
カンファレンススペース5階
3. 目的事項
報告事項 第17期（2025年1月1日から2025年12月31日まで）事業報告及び計算書類の内容報告の件
決議事項
第1号議案 定款一部変更の件
第2号議案 取締役4名選任の件
第3号議案 監査役1名選任の件
第4号議案 資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分の件
第5号議案 会計監査人選任の件
4. 招集にあたっての決定事項
3頁以下の【議決権行使のご案内】をご参照ください。

◎当日ご出席の際は、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎また、代理人により議決権を行使される場合は、当社の議決権を有する他の株主様1名を代理人として、その議決権を行使することが可能です。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となります。

◎株主総会にご出席の株主様へのお土産の配布は取り止めさせていただいております。何卒、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

◎本招集ご通知に修正が生じた場合は、上記インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.enish.jp/>）及び東証ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載いたします。

◎本株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、一律に電子提供措置事項の記載を含む書面をお送りしております。

以上

議決権行使のご案内

今回の定時株主総会で付議されております議案につきまして、以下のいずれかの方法で議決権の行使を賜りますようお願い申し上げます。

株主総会にご出席
いただく場合



議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

日 時 2026年3月24日（火曜日）午前10時
（受付開始 午前9時30分）

場 所 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号
イベントスペースEBiS303
カンファレンススペース5階
（末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください）

書面による場合

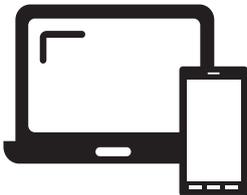


書面による議決権行使は、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、2026年3月23日（月曜日）19時（午後7時）までに当社に到着するよう折り返しご送付ください。

※ご返送いただいた議決権行使書において、議案につき賛否の表示をされない場合は、賛成の表示があったものとして取り扱います。

※ご送付いただきます議決権行使書用紙は料金受取人払いのハガキとなっております。通常の郵便物に比べ郵便局での処理に時間を要しますので、誠に恐縮ではございますが、お早めにご投函くださいますようお願い申し上げます。

インターネット
による場合



当社の指定する議決権行使ウェブサイト（<https://evote.tr.mufg.jp/>）にアクセスをしていただくか、スマートフォン等により議決権行使書用紙のQRコードを読み取ることで、議決権をご行使ください。

行使期限 | 2026年3月23日（月曜日）19時（午後7時）

詳細は次頁をご覧ください



インターネットによる 議決権行使のお手続きについて

1. 議決権行使サイトについて

(1) インターネットによる議決権行使は、パソコンまたはスマートフォンから当社の指定する議決権行使サイト (<https://evote.tr.mufg.jp/>) にアクセスしていただくことによつてのみ実施可能です。(ただし、毎日午前2時30分から午前4時30分までは取り扱いを休止します。)

(2) インターネット接続にファイアウォール等を使用されている場合、アンチウイルスソフトを設定されている場合、proxyサーバーをご利用の場合、TLS暗号化通信を指定されていない場合等、株主様のインターネット利用環境によっては、ご利用できない場合もございます。

(3) インターネットによる議決権行使は、2026年3月23日(月曜日)の19時(午後7時)まで受け付けいたしますが、お早めに行使していただき、ご不明な点等がございましたら次頁に記載のヘルプデスクまでお問い合わせください。

2. インターネットによる議決権行使方法について

(1) パソコンによる方法

・議決権行使サイト (<https://evote.tr.mufg.jp/>) において、議決権行使書用紙に記載された「ログインID」及び「仮パスワード」をご利用いただき、画面の案内に従って賛否をご入力ください。

・株主様以外の第三者による不正アクセス(“なりすまし”)や議決権行使内容の改ざんを防止するため、「仮パスワード」は議決権行使サイト上で任意のパスワードへの変更が可能です。

・株主総会の招集の都度、新しい「ログインID」及び「仮パスワード」をご通知いたします。

(2) スマートフォンによる方法

・議決権行使書用紙に記載の「ログイン用QRコード」をスマートフォンにより読み取ることで、議決権行使サイトに自動的に接続し、議決権行使を行うことが可能です。(「ログインID」及び「仮パスワード」の入力は不要です。)

・スマートフォン機種によりQRコードでのログインが出来ない場合があります。QRコードでのログインが出来ない場合には、上記2. (1) パソコンによる方法にて議決権行使を行ってください。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

3. 複数回にわたり行使された場合の議決権の取り扱い

(1) 郵送とインターネットにより重複して議決権を行使された場合は、インターネットによる議決権行使の内容を有効として取り扱わせていただきますのでご了承ください。

(2) インターネットにより複数回にわたり議決権を行使された場合は、最後に行使された内容を有効とさせていただきます。

4. 議決権行使サイトへのアクセスに際して発生する費用について

議決権行使サイトへのアクセスに際して発生する費用（インターネット接続料金等）は、株主様のご負担となります。

以 上

システム等に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部（ヘルプデスク）

・電話 0120-173-027（受付時間 9:00～21:00、通話料無料）

事業報告

(2025年1月1日から
2025年12月31日まで)

1. 会社の現況

(1) 当事業年度の事業の状況

① 事業の経過及び成果

当事業年度における我が国経済は、雇用や所得環境の改善により緩やかな回復傾向にある一方で、為替相場の変動や原材料価格の高止まり、物価上昇などの影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような事業環境の中、当社は「Link with Fun」というスローガンのもと、「世界中にenishファンを作り出す」というミッションを掲げ、より多くのお客様に楽しんでいただける、魅力的なサービスの提供に取り組んでおります。

2024年度の国内ゲームコンテンツ市場は、前年比3.4%増の約2.4兆円と堅調な規模を維持しました。その中で、当社の事業領域であるモバイルゲーム市場は、引き続き市場全体に占める比重が高く、約1.7兆円と継続して安定した規模を維持しております。（出典：株式会社角川アスキー総合研究所「ファミ通ゲーム白書2025」）

このような事業環境の中、既存タイトルについては、運営施策を工夫することで売上の逡減を最小限に抑えるとともに、時差が少なく通信環境も良好なベトナムの子会社を活用し、チャットやオンライン会議等を通じて密なコミュニケーションを図り、コスト削減と円滑な運営体制の両立に努めております。新規タイトルに関しては、知名度の高い社外IPの活用や、当社がこれまでに培ってきたノウハウ・知見を基盤に、開発の遅延防止、プロモーション投資による集客強化、さらにはグローバル展開も視野に入れた魅力的なゲーム及び関連事業の展開を推進しております。こうした既存タイトルの効果的な運営と新規開発の両輪により、売上高の維持・拡大を図っております。

「ぼくのレストラン2」や「ガルショ☆」は、リリースから15年を迎える現在も、コラボレーション施策が好調に推移しており、安定した収益を確保しております。今後も、運営施策の工夫により売上の減少を抑制し、よりきめ細かな対応を通じてユーザー満足度の向上に努めてまいります。

また、リリース3周年を迎えた「進撃の巨人 Brave Order」では、新規ユーザー獲得、既存ユーザーの呼び戻し、機能改善等に取り組み、タイトルの活性化を図るとともに、魅力的なイベント施策の展開により、収益への寄与を図っております。さらに、リリース1周年を迎えた「De:Lithe～忘却の真王と盟約の天使～」をベースとするブロックチェーンゲーム「De:Lithe Last Memories」は、ローグライクRPGとして開発されましたが、暗号資産GEEKが取引所においてデリスト（取引停止）となったことを受け、現在はモバイルゲームとして再構築のうえ、再始動しております。

足元の新作としては、オンライン麻雀ゲーム「雀エボライブ」を2025年9月17日にリリースいたしました。本作は初心者から上級者まで楽しめる多彩なプレイモードを備え、個性豊かなキャラクター（雀士）が登場します。豪華声優陣によるボイスや衣装の着せ替え要素も取り入れ、麻雀対局だけでなくキャラクター収集の楽しみも提供するタイトルとなっております。リリース初期の売上は当初の想定を下回ったものの、継続的な機能改善やイベント施策により、今後の収益寄与につなげてまいります。また、パズルゲーム「声優どうぶつ園 ボイスフル」は、中国版TikTokである抖音（ドウイン）にて、2026年春リリースに向け、開発を進めております。さらに、「ゆるキャン△ みんなでワチャワチャ！キャンピングクック！」を今冬リリースに向け、開発を進めております。本作は人気TVアニメ『ゆるキャン△』を原作としたNintendo Switch及びSteam向けゲームであり、登場キャラクターたちと協力しながらキャンプの段取りを楽しむキャンピングアクションゲームです。ソロプレイとマルチプレイ双方の体験価値を提供します。Steamストアページ及び公式サイトへの公開に加え、『ゆるキャン△』10周年記念展での試遊出展を通じて、発売を楽しみに待っているファンを中心に、リリースへの期待を高めるとともに、より多くの方に知ってもらえるよう準備を進めております。

さらに、新たなタイトルとして、大人気TVアニメ『弱虫ペダル』シリーズの新作アプリ「弱虫ペダル レゾナンス・ペダイズム」の制作を決定いたしました。本作は、主人公・小野田坂道をはじめとする個性豊かなキャラクターたちが織りなす、青春ストーリーを背景とした育成シミュレーションゲームです。制作発表直後より大きな反響を得ており、今後の開発進捗に応じた情報公開を通じて、さらなる認知度向上と安定したリリース体制の構築を目指してまいります。

また、2025年11月11日付「訴訟の解決に伴う特別損失の計上に関するお知らせ」で開示したとおり、当社に対して提起されていた株式会社HashPaletteからの不当利得返還請求訴訟につきましては、和解が成立いたしました。本件に関連して発生した和解金等につきましては、契約関係に基づく会計処理を行った結果、当事業年度において特別損失として計上しております。今後は、取引関係の適正化に一層努めてまいります。

このように、当事業年度においては、既存タイトルの安定運営に加え、新規タイトルの投入に向けた企画・開発部門への人材投入のほか、中期的観点から企業価値及び株主価値の向上に向けた施策や、将来のリスク解消を積極的に進めております。また、業務全体としては、不採算タイトルの事業譲渡や配信終了も視野に入れつつ、AI技術を活用した業務プロセスの効率化を推進しており、外注加工費や広告宣伝費の削減をはじめ、売上原価及び販売費・一般管理費の低減に向けた取り組みが着実に成果を上げつつあります。

以上の結果、当事業年度の業績は、売上高は2,170百万円（前事業年度比34.5%の減少）、営業損失は856百万円（前事業年度は815百万円の営業損失）、経常損失は832百万円（前事業年度は862百万円の経常損失）、当期純損失は1,151百万円（前事業年度は882百万円の当期純損失）となっております。

② 設備投資の状況

当社は、開発環境の整備に対処するために、3百万円の設備投資をいたしました。設備投資の主な内容は、従業員への貸与PC等であります。

なお、当事業年度において「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の有形固定資産及び無形固定資産について、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなったと判断し、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。この結果、当該減少額3百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

③ 資金調達の状況

当社は、当事業年度において新株予約権の行使による増資により1,027百万円の調達、金融機関より短期借入金として300百万円の調達を行いました。当事業年度末の借入実行残高は300百万円であります。

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第 14 期 (2022年12月期)	第 15 期 (2023年12月期)	第 16 期 (2024年12月期)	第 17 期 (当事業年度) (2025年12月期)
売 上 高(百万円)	4,118	3,508	3,317	2,170
経 常 損 失 (△)(百万円)	△375	△1,265	△862	△832
当 期 純 損 失 (△)(百万円)	△415	△1,374	△882	△1,151
1 株 当 た り 当 期 純 損 失 (△) (円)	△25.84	△76.60	△36.09	△44.19
総 資 産(百万円)	2,250	1,893	1,760	1,593
純 資 産(百万円)	1,127	508	889	766
1 株 当 た り 純 資 産 額 (円)	65.15	23.43	32.99	19.99

(3) 重要な親会社及び子会社の状況

該当事項はありません。

(4) 対処すべき課題

当社が属するモバイルゲーム業界につきましては、市場規模が横ばいのなか競争環境が激化しております。このような状況の下、当社といたしましては継続的に良質なゲームタイトルを市場に投入することで確固たる収益基盤を確立する必要があると考えております。

以上を踏まえ、当社としましては、以下の具体的な課題に取り組んでまいります。

① 事業運営の最適化と収益性の改善

当社は、これまでに提供してきたタイトルの運営を通じて蓄積したノウハウを活用し、タイトルごとの収益構造を踏まえた運営方針の見直しを行うことで、収益性の改善に取り組んでまいります。併せて、AI技術を活用した業務プロセスの効率化を推進し、生産性の向上を図ることで、経営資源を有効に活用してまいります。これらの取り組みにより、成長投資を継続しつつ、安定的かつ持続的な収益基盤の構築を目指してまいります。

② 高品質なゲームタイトルの開発とIP活用の推進

当社は、ユーザーの嗜好の高度化・多様化に対応するため、魅力的なIP（知的財産）を活用したタイトルの開発に注力いたします。開発にあたっては、エンジン化・ライブラリ化等の開発基盤強化により、再利用性を高め、再開発費を抑制するとともに、AI活用や自動化・標準化を推進することで、少人数でも高品質な開発を実現する体制への転換を図ってまいります。加えて、オフショア拠点を活用した機動的な開発体制を構築し、開発リードタイムの短縮と品質担保の両立を実現することで、資本効率の向上とIPの価値最大化を目指してまいります。

③ 海外マーケット展開の強化

海外のモバイルゲーム市場は、デジタルプラットフォームの普及や通信環境の高度化を背景に、引き続き拡大傾向にあります。当社としましては、モバイルゲーム市場における規模及び成長性が大きい海外市場への参入を重要な成長戦略の一つと位置づけ、特定の地域に限定することなく、全世界（注）を対象としてサービス展開を積極的に推進していく方針であります。

（注）諸国法令上、一部の国への配信はいたしません。

④ AI活用による少数精鋭体制の構築と環境整備

当社は、AI技術の活用による業務効率化及び業務プロセスの高度化を推進し、個々の専門性を最大限に発揮できる少数精鋭の組織体制の構築に取り組んでおります。また、定型業務や間接業務へのAI活用を通じて創出された時間・リソースを、企画・開発・事業推進など付加価値の高い業務へ重点的に配分するとともに、業務負荷の軽減や業務の可視化を進めることで、従業員が安心して柔軟な働き方を実現できる就業環境の整備に取り組んでまいります。

⑤ 優秀な人材確保と育成

当社は、持続的な事業成長及び企業価値の向上を実現するためには、事業戦略を担う高い専門性と主体性を備えた人材の確保及び育成が重要であると認識しております。採用面においては、当社の事業ビジョンや挑戦的な取り組みを積極的に発信するとともに、多様なバックグラウンドを持つ人材が能力を発揮できる柔軟な就業制度や福利厚生の実施を図り、長期的に活躍できる人材の獲得に努めてまいります。また、育成面においては、職種・役割に応じた教育機会の提供や、社内外の知見を活用した学習環境の整備を通じて、従業員一人ひとりの専門性及び成長意欲の向上を図るとともに、組織全体としての知見・ノウハウの蓄積と継承に取り組んでまいります。

⑥ システムの安定的な稼働

当社は、サービスをインターネット上で提供していることから、システムの安定的な稼働を確保していくことが重要だと認識しております。ユーザー数の増加に対応する負荷分散等、システムやサーバー設備の実施を継続的に推進してまいります。また、トラブル発生時においては迅速かつ的確な対応が必要になることから、その対応が可能となる体制を引き続き維持強化してまいります。

⑦ サイトの安全性及び健全性の確保

当社が提供するサービスは、不特定多数のユーザーが登録をしていることから、ユーザーが安全かつ安心して利用できる環境を維持していくことが当社の信頼性の向上につながると考えております。ユーザーが安心して当社のサービスを利用できるよう、当社は個人情報保護や知的財産保護のためのガイドラインを設け、サイトの安全性・健全性の確保に努めており、今後も継続していく方針であります。

⑧ 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当事業年度においても、前事業年度同様、重要な営業損失、経常損失、当期純損失を計上している状況にあることから継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は、当該事象又は状況を解消し事業基盤及び財務基盤の安定化を実現するために、以下の対応策を講じております。

a. 事業基盤の安定化

徹底的なコスト削減や、事業の選択と集中により、事業基盤の安定化を図ってまいります。具体的には、既存タイトルについては、各タイトルの収益状況に応じた人員配置を行うなど運営体制の見直しを継続的に行うことによりコスト削減を図るほか、その中においても収益が見込めない既存タイトルについては、それらの事業譲渡・配信終了も視野に対応する方針であります。また、他社IPタイトルとのコラボレーションを実施するなど、他社IPの協力を得ることによりユーザーのログイン回数や滞在時間の増加を図り、売上収益の拡大を進めてまいります。今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、高品質なタイトルの開発を推進いたします。人員体制及び協力企業の制作力・技術力を踏まえ、過去事例を参考に慎重に工数を見積もることで、開発スケジュールの遅延等による開発費の増加が生じないように努めてまいります。また、IPの価値と経済条件を踏まえ収益性が高く見込まれるタイトルに対して優先的に開発・運営人員を配置することにより、当社の収益改善を図ってまいります。

b. 財務基盤の安定化

財務面につきましては、財務基盤の安定化のため、複数社の取引金融機関や協業先と良好な関係性を築いており、引き続き協力を頂くための協議を進めております。なお、2025年1月10日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第19回新株予約権が2025年5月29日までにすべて行使された結果、727,315千円の資金調達をしております。また、2025年10月14日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第20回新株予約権が2025年12月31日までに45,940個行使された結果、300,146千円の資金調達をしております。売上高やコスト等の会社状況を注視し、必要に応じてすみやかな各種対応策の実行をしてまいります。

上記の対応策を講じていくとしても、既存タイトルの売上動向、新規タイトルの売上見込及び運営タイトルの各種コスト削減については将来の予測を含んでおり、引き続き業績の回復状況を慎重に見極める必要があることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、計算書類及びその附属明細書は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を計算書類及びその附属明細書に反映しておりません。

(5) 主要な事業内容 (2025年12月31日現在)

事業区分	事業内容
エンターテインメント事業	モバイルゲームの企画・開発・提供

(6) 主要な事業所 (2025年12月31日現在)

本社	東京都港区
----	-------

(7) 使用人の状況 (2025年12月31日現在)

事業区分	使用人数	前事業年度末比増減
エンターテインメント事業	82 (10) 名	30名減 (6名減)

- (注) 1. 使用人数は就業員数であり、パートタイマー、契約社員、人材会社からの派遣社員は () 内に年間平均人員を外数で記載しております。
2. 使用人数が前事業年度末と比べて30名減少しておりますが、その主な理由は、リラクチャリングの推進による人員適正化によるものであります。

(8) 主要な借入先の状況 (2025年12月31日現在)

借入先	借入金残高
モルガン・スタンレー・クレジット・プロダクツ・ジャパン株式会社	300百万円

- (注) 当社は、2025年8月29日付で、モルガン・スタンレー・クレジット・プロダクツ・ジャパン株式会社に対して既存の借入金を全額返済するとともに、短期的な資金需要の対応、及び財務基盤の安定化のため、新規の借入を行っております。

2. 株式の状況 (2025年12月31日現在)

(1) 発行可能株式総数 48,000,000株

(2) 発行済株式の総数 38,137,560株

(注)新株予約権の権利行使により、発行済株式の総数は11,294,000株増加しております。

(3) 株主数 15,900名

(4) 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
BNP PARIBAS LONDON BRANCH FOR PRIME BROKERAGE CLEARANCE ACC FOR THIRD PARTY	1,059,200株	2.77%
公文善之	1,047,280	2.74
株式会社SBI証券	943,800	2.47
安徳孝平	936,880	2.45
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	673,321	1.76
INTERACTIVE BROKERS LLC	524,600	1.37
NOMURA INTERNATIONAL PLC A/C JAPAN FLOW	520,637	1.36
JP JPMSE LUX RE UBS AG LONDON BRANCH EQ CO	488,700	1.28
岡三証券株式会社	478,300	1.25
株式会社証券ジャパン	478,300	1.25

(注)持株比率は自己株式(684株)を控除して計算しております。

3. 新株予約権等の状況

(1) 当事業年度の末日において当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況

該当事項はありません。

(2) 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況

該当事項はありません。

4. 会社役員の様況

(1) 取締役及び監査役の様況 (2025年12月31日現在)

地 位	氏 名	担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況
代表取締役社長	安 徳 孝 平	
取締役執行役員	公 文 善 之	プロダクト本部長
取締役執行役員	川 平 一 人	技術本部長
取 締 役	安 川 新 一 郎	グレートジャーニー合同会社代表社員 株式会社リブセンス社外取締役
常 勤 監 査 役	志 村 直 幸	公認会計士志村直幸事務所所長 ファロス税理士法人社員
監 査 役	安 達 裕	潮見坂綜合法律事務所弁護士
監 査 役	太 田 健 太 郎	株式会社高岡屋 取締役管理部長

- (注) 1. 取締役 安川新一郎氏は、社外取締役であります。当社は取締役 安川新一郎氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。
2. 常勤監査役 志村直幸氏、監査役 安達裕氏及び監査役 太田健太郎氏は、社外監査役であります。当社は、常勤監査役 志村直幸氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。
3. 常勤監査役 志村直幸氏は、公認会計士・税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 2025年6月30日をもって、取締役 魚屋和彦氏は辞任により退任いたしました。

(2) 取締役及び監査役の報酬等

①取締役の個人別の報酬等の内容の決定に関する方針に関する事項

a. 決定方針の決定の方法等

当社は、2021年2月16日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する方針を決議しております。

また、取締役会は、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

b. 決定方針の内容の概要

当社では、役員報酬が客観的に適正な水準であり、公明かつ合理的なプロセスを経て決定されることが、コーポレート・ガバナンス上極めて重要であるとの考えのもと、国内外の同業又は同規模の他企業との比較及び当社の財務状況を考慮するなど、客観的かつ合理的な視点も加味した上で、具体的な報酬額を取締役会又は取締役会の授権を受けた代表取締役が決定しております。また、取締役の各人別の報酬額の算定方法については全取締役との協議により決定いたします。

当社の取締役の報酬に関しては、2011年6月30日開催の臨時株主総会において、その報酬限度額は年額2億5千万円（定款で定める取締役の員数は3名以上9名以内であり、当該臨時株主総会の終結時の取締役は4名）と決議されており、かかる報酬限度額内において、各役員の職務の内容、職位及び実績・成果等を勘案して報酬額を決定いたします。

当社の取締役の報酬は、金銭報酬である基本報酬及び役員賞与並びにストック・オプションにより構成されます。これらの各報酬の割合は、取締役としての役割・職責等に見合った報酬を付与すべき要請と、短期及び中長期的な企業価値向上に向けた健全なインセンティブを付与すべき要請とを考慮し、適切に設定することといたします。

基本報酬は、各取締役の役位・職責・責任範囲の大きさ及び業績等を勘案し、当社の従業員給与水準及び同業又は同規模の他企業における支給水準を参考として支給額を決定いたします。各取締役の報酬額は、取締役会の授権を受けた代表取締役が決定いたします。なお、基本報酬は、毎月支給するものといたします。

役員賞与は、会社の業績が著しく向上し、計画を上回る利益を計上した場合には、決算期の経過後3ヶ月以内に、役員賞与を支給することがあります。各役員の役員賞与額は、各役員の業績への寄与度を考慮し、取締役の授権を受けた代表取締役が決定いたします。ただし、期中に臨時に基本報酬を改定し、役員賞与の支給に代えることがあります。

非金銭報酬は、ストック・オプションとしての新株予約権を採用し、当社の株価上昇及び業績向上に対する意欲や士気を高めることを目的として、必要と判断した時期に付与を行います。各役員への各事業年度における付与の総額及び付与の割合については、原則的に基本報酬を基準としつつ、付与時の当社株価、株式市場への影響、当社の財務状況等を総合的に勘案し、取締役会が決定をいたします。

②当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等の総額

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	ストック オプション	
取締役 (うち社外取締役)	22,364 (7,500)	22,364 (7,500)	— (—)	— (—)	6 (2)
監査役 (うち社外監査役)	10,800 (10,800)	10,800 (10,800)	— (—)	— (—)	3 (3)
合計	33,164 (18,300)	33,164 (18,300)	— (—)	— (—)	9 (5)

- (注) 1. 上表には、2025年3月27日開催の第16回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名を含んでおります。
2. 上表には、2025年6月30日をもって退任した取締役1名を含んでおります。
3. 2011年6月30日開催の臨時株主総会において、取締役の報酬限度額は年額2億5千万円以内と決議しております(使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない)。当該株主総会終結時点の取締役の員数は、4名(うち、社外取締役は0名)です。
4. 2011年6月30日開催の臨時株主総会において、監査役の報酬限度額は年額5千万円以内と決議しております。当該株主総会終結時点の監査役の員数は、3名(うち、社外監査役は3名)です。

③取締役の個人別の報酬等の決定に係る委任に関する事項

2025年3月27日開催の取締役会の決議により、代表取締役社長安徳孝平に対し、当事業年度における各取締役の基本報酬の額及び社外取締役を除く各取締役の担当部門の業績等を踏まえた賞与の評価配分の決定を委任しております。委任した理由は、当社全体の業績等を勘案しつつ各取締役の担当部門について評価を行うには代表取締役社長が適していると判断したためであります。

(3) 社外役員に関する事項

① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

地 位	氏 名	兼職先の法人等	兼職の内容
取 締 役	安 川 新 一 郎	グレートジャーニー合同会社	代表社員
		株式会社リブセンス	社外取締役
常勤監査役	志 村 直 幸	公認会計士志村直幸事務所	所長
		ファロス税理士法人	社員
監 査 役	安 達 裕	潮見坂綜合法律事務所	弁護士
監 査 役	太 田 健 太 郎	株式会社高岡屋	取締役管理部長

- (注) 1. 当社とグレートジャーニー合同会社、株式会社リブセンスとの間に特別の関係はありません。
2. 当社と公認会計士志村直幸事務所、ファロス税理士法人との間に特別の関係はありません。
3. 当社と潮見坂綜合法律事務所との間に特別の関係はありません。
4. 当社と株式会社高岡屋との間に特別の関係はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

地 位	氏 名	出席状況、発言状況及び社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要
取 締 役	安 川 新 一 郎	当事業年度開催の取締役会14回すべてに出席し、主にIT分野の見地から、積極的に意見を述べており、特にIT分野における幅広い経験から、意思決定の妥当性・適正性を確保するための役割を果たしております。
常 勤 監 査 役	志 村 直 幸	当事業年度開催の取締役会14回すべてに出席、監査役会15回すべてに出席いたしました。公認会計士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。また、監査役会において、当社の会計方針・監査法人との協議内容について、適宜、必要な発言を行っております。

地 位	氏 名	出席状況、発言状況及び社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要
監 査 役	安 達 裕	当事業年度開催の取締役会14回すべてに出席、監査役会15回すべてに出席いたしました。弁護士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。また、監査役会において、当社のコンプライアンス体制等について適宜、必要な発言を行っております。
監 査 役	太 田 健太郎	当事業年度開催の取締役会14回のうち12回に出席、監査役会15回すべてに出席いたしました。取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。また、監査役会において、当社の管理部門における幅広い見識と豊富な経験から適宜、必要な発言を行っております。

(4) 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項に基づき、各社外取締役及び各社外監査役との間に同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は法令の定める最低責任限度額としております。

(5) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等

当社は、会社法第430条の3第1項に基づき、当社の取締役及び監査役を被保険者として、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で1年毎に締結しております。また、次回更新時には同内容での更新を予定しております。

①補填の対象となる保険事故の概要

被保険者である役員等がその職務の執行に関し負担する法律上の損害賠償金、及び当該責任の追及に係る請求を受けることによって生じる争訟費用等の損害について補填するものです。

②保険料

株主代表訴訟担保特約条項に係る保険料については被保険者である各役員等の負担、その他の保険料については会社負担としております。

5. 会計監査人の状況

(1) 名称 監査法人アリア（一時会計監査人）

(注) 当社の会計監査人でありましたゼロス有限責任監査法人は、2025年6月11日付で辞任いたしました。これに伴い、当社は同日開催の監査役会において、監査法人アリアを一時会計監査人に選任し、同監査法人が就任いたしました。

(2) 報酬等の額

	監 査 法 人 ア リ ア	ゼロス有限責任 監 査 法 人
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	13,080千円	6,720千円
当社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	13,080千円	6,720千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 当社監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、監査計画における監査時間及び監査報酬の推移並びに過年度の監査計画と実績の状況を確認し、報酬額の見積りの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定し、取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

6. 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

(1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ①取締役及び従業員の職務の執行が、法令及び定款に適合し、企業倫理を遵守することで、社会的責任を果たすため、「行動規範」「コンプライアンス規程」等社内諸規程の整備と周知徹底を図ります。
- ②管理本部担当取締役を法令等遵守体制の整備にかかる責任者として、法令等遵守にかかる規程・マニュアルその他の関連規程の整備を行うとともに、法令等遵守にかかる教育啓蒙の実施、内部通報制度の整備等、法令等遵守体制の充実に努めます。
- ③内部監査部門は、「内部監査規程」に基づき、法令、定款及び社内諸規程の遵守状況並びに職務の執行の手續及び内容の妥当性等を定期的に監査し、法令等遵守体制の改善に寄与します。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ①取締役の職務の執行に係る情報は、「文書管理規程」その他関連規程に従い、文書または電磁的媒体に記録し、適切に保存及び管理を行います。
- ②取締役及び監査役は、常時、これらの文書等を閲覧できるものとします。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ①「リスク管理規程」を制定し、潜在リスク及び顕在リスク情報に対する迅速かつ適切な措置を講ずる体制の構築を進めます。
- ②リスクに関する情報を入手したときは、正確、かつ迅速に取締役会または経営会議にて共有し、リスクの把握と分析並びに対応策について検討します。
- ③不測の事態が生じた場合には、代表取締役社長を統括責任者とする対策委員会を設置し、迅速かつ的確な対応を行い、損害の拡大を防止する体制を整えます。

- (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ①取締役会は月1回定期的に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、機動的な意思決定を行います。
 - ②取締役会のもとに毎週開催される経営会議を設置し、取締役会の意思決定に資するとともに、業務執行状況の報告を行います。
 - ③業務執行においては、「組織規程」及び「職務権限規程」等社内諸規程に基づき権限委譲と責任の明確化を図ることで、担当する部門における職務執行の効率性を高めます。
- (5) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
管理本部所属の使用人が、監査役の求めに応じて監査役の職務を補助するものとします。
- (6) 監査役を補助する使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する監査役の指示の実効性に関する事項
- ①監査役は、監査役を補助する管理本部所属の使用人に監査業務に必要な事項を指示することができます。
 - ②前号の指示を受けた使用人はその指示に関して、取締役の指揮命令は受けないものとし、また、監査役を補助する管理本部所属の使用人の人事考課については、事前に監査役の同意を得るものとします。
- (7) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
- ①監査役は、重要な意思決定のプロセスや業務執行状況を把握するため、重要な会議に出席し、必要に応じ重要な文書を閲覧し、取締役及び使用人にその説明を求めることができます。
 - ②取締役及び使用人は、監査役の求めに応じて速やかに業務執行状況を報告します。
 - ③取締役及び使用人は、監査役に対し、当社に重要な影響を与える事項、内部監査の実施状況、社内通報制度の通報内容等を速やかに報告する体制を整えます。
- (8) 監査役へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
当社は、監査役へ報告を行った当社の取締役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を社内規程に定め、当社の取締役及び使用人に周知徹底します。

- (9) 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務の遂行について生じる費用の前払いまたは償還等の請求をしたときは、当該監査役の職務の遂行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理します。

- (10) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ①監査役は、代表取締役社長及び内部監査部門と定期的に意見交換を行います。
- ②監査役は会計監査人から定期的に監査の状況報告を受けることで監査の有効性、効率性を高めます。
- ③監査役が必要と認める場合には、弁護士や公認会計士等の専門家との連絡が行える体制を構築します。

- (11) 財務報告の信頼性を確保するための体制

- ①信頼性のある財務報告を作成することが重要であることから「財務報告に係る内部統制基本方針」を整備し、周知徹底を図ります。
- ②財務報告の作成過程において、虚偽記載及び誤謬が生じないよう実効性のある統制環境体制の整備及び運用を行います。

- (12) 反社会的勢力を排除するための体制

- ①反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨むとともに、一切の関係を遮断します。
- ②管理本部を反社会的勢力対応部署とし、情報の一元管理を行うとともに、すべての使用人に「反社会的勢力等対応マニュアル」の周知徹底を行い、組織的に違法行為・不当要求へ対処します。

- (13) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

会社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

内部統制については、基本方針に基づき、体制の構築と運用が確実に行われるように努めており、必要に応じて体制の見直しを行っております。また、財務報告の内部統制については、当社の全社統制及び業務プロセスの整備と運用状況の評価を実施いたしました。前年度の評価範囲について実質的な変更はありませんが、有効性は勿論、効率面にも注力し、整備と運用の改善を今後とも進めてまいります。

貸借対照表

(2025年12月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	1,322,688	流動負債	824,116
現金及び預金	882,813	買掛金	41,930
売掛金	211,305	短期借入金	300,000
前渡金	20,350	1年以内償還予定の社債	30,000
前払費用	41,607	リース債務	654
暗号資産	111,562	未払金	185,435
その他	55,050	未払費用	11,697
固定資産	270,897	未払法人税	32,240
投資その他の資産	270,897	契約負債	209,355
投資有価証券	40,659	預り金	7,945
関係会社株式	133,580	その他	4,857
長期前払費用	1,646	固定負債	2,977
敷金及び保証金	95,010	リース債務	1,037
		資産除去債務	1,940
		負債合計	827,093
		(純資産の部)	
		株主資本	762,442
		資本金	4,903,422
		資本剰余金	4,902,422
		資本準備金	4,902,422
		利益剰余金	△9,043,210
		その他利益剰余金	△9,043,210
		繰越利益剰余金	△9,043,210
		自己株式	△192
		新株予約権	4,050
		純資産合計	766,492
資産合計	1,593,585	負債純資産合計	1,593,585

損 益 計 算 書

(2025年1月1日から
2025年12月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	金 額
売 上 高		2,170,101
売 上 原 価		2,493,708
売 上 総 利 益		△323,606
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		533,046
営 業 損 失 (△)		△856,653
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	5,294	
暗 号 資 産 評 価 益	7,448	
債 務 免 除 益	53,393	
そ の 他	146	66,283
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	35,044	
為 替 差 損	1,815	
株 式 交 付 費	4,112	
そ の 他	1,099	42,072
経 常 損 失 (△)		△832,442
特 別 損 失		
減 損 損 失	3,155	
貸 倒 損 失	244,075	
特 別 退 職 金	15,535	
和 解 金	52,500	315,266
税 引 前 当 期 純 損 失 (△)		△1,147,709
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	4,012	4,012
当 期 純 損 失 (△)		△1,151,722

株主資本等変動計算書

(2025年1月1日から)
(2025年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本						株 主 資 本 計 合
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金		自 己 株 式	
		資 本 準 備 金	資 本 剰 余 金 合 計	そ の 他 利 益 剰 余 金 繰 越 剰 余 金	利 益 剰 余 金 合 計		
当 期 首 残 高	4,389,188	4,388,187	4,388,187	△7,891,488	△7,891,488	△191	885,695
当 期 変 動 額							
新 株 の 発 行 (新株予約権の行使)	514,234	514,234	514,234				1,028,469
自 己 株 式 の 取 得						△0	△0
当 期 純 損 失 (△)				△1,151,722	△1,151,722		△1,151,722
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)							
当 期 変 動 額 合 計	514,234	514,234	514,234	△1,151,722	△1,151,722	△0	△123,253
当 期 末 残 高	4,903,422	4,902,422	4,902,422	△9,043,210	△9,043,210	△192	762,442

	新 株 予 約 権	純 資 産 計 合
当 期 首 残 高	3,765	889,460
当 期 変 動 額		
新 株 の 発 行 (新株予約権の行使)		1,028,469
自 己 株 式 の 取 得		△0
当 期 純 損 失 (△)		△1,151,722
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	285	285
当 期 変 動 額 合 計	285	△122,967
当 期 末 残 高	4,050	766,492

個別注記表

1. 継続企業の前提に関する注記

当社は、当事業年度においても、前事業年度同様、重要な営業損失、経常損失、当期純損失を計上している状況にあることから継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は、当該事象又は状況を解消し事業基盤及び財務基盤の安定化を実現するために、以下の対応策を講じております。

①事業基盤の安定化

徹底的なコスト削減や、事業の選択と集中により、事業基盤の安定化を図ってまいります。具体的には、既存タイトルについては、各タイトルの収益状況に応じた人員配置を行うなど運営体制の見直しを継続的に行うことによりコスト削減を図るほか、その中においても収益が見込めない既存タイトルについては、それらの事業譲渡・配信終了も視野に対応する方針であります。また、他社IPタイトルとのコラボレーションを実施するなど、他社IPの協力を得ることによりユーザーのログイン回数や滞在時間の増加を図り、売上収益の拡大を進めてまいります。今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、高品質なタイトルの開発を推進いたします。人員体制及び協力企業の制作力・技術力を踏まえ、過去事例を参考に慎重に工数を見積もることで、開発スケジュールの遅延等による開発費の増加が生じないように努めてまいります。また、IPの価値と経済条件を踏まえ収益性が高く見込まれるタイトルに対して優先的に開発・運営人員を配置することにより、当社の収益改善を図ってまいります。

②財務基盤の安定化

財務面につきましては、財務基盤の安定化のため、複数社の取引金融機関や協業先と良好な関係性を築いており、引き続き協力を頂くための協議を進めております。なお、2025年1月10日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第19回新株予約権が2025年5月29日までにすべて行使された結果、727,315千円の資金調達をしております。また、2025年10月14日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第20回新株予約権が2025年12月31日までに45,940個行使された結果、300,146千円の資金調達をしております。売上高やコスト等の会社状況を注視し、必要に応じてすみやかな各種対応策の実行をしてまいります。

上記の対応策を講じていくとしても、既存タイトルの売上動向、新規タイトルの売上見込及び運営タイトルの各種コスト削減については将来の予測を含んでおり、引き続き業績の回復状況を慎重に見極める必要があることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、計算書類及びその附属明細書は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を計算書類及びその附属明細書に反映しておりません。

2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

② その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

移動平均法による原価法を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) 暗号資産

活発な市場が存在するもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(3) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 15年

工具、器具及び備品 4～10年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（2～5年）に基づいております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 繰延資産の処理方法

株式交付費

支出時に全額費用として処理しております。

(5) 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な区分における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。なお、取引の対価は履行義務を充足してから1年以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

① 顧客に対するアイテム課金に係る収益

当社において運営するモバイルゲームは、アイテム課金等の方法により運営を行っております。アイテム課金については、顧客であるユーザーが当該アイテムを用いてゲームを行い、当社がアイテムごとに定められた内容の役務提供を行うことで履行義務が充足されるものと判断しております。そのため、アプリ内アイテムを購入した時点以降のアイテム使用期間を見積り、当該見積期間に応じて収益を認識しております。

② 受託開発に係る収益

他社から受託しゲームの開発を行っております。受託開発における履行義務は、顧客である企業に対し一定期間かけて開発するアプリ・ゲームの提供であると判断しております。そのため、開発の進捗に応じて履行義務が充足されると判断し、一定の期間にわたり収益を認識しております。

(6) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

該当事項はありません。

3. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

4. 表示方法の変更に関する注記

該当事項はありません。

5. 会計上の見積りに関する注記

固定資産の減損

① 当事業年度の計算書類に計上した金額

有形固定資産	3,155千円
--------	---------

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

資産グループに減損の兆候が認められた場合に、割引前将来キャッシュ・フローを算定し、減損損失を認識するかどうかの判定を行います。その結果、減損損失を認識すべきであると判定された場合、資産グループの正味売却価額と使用価値のいずれか高い方の金額を回収可能価額とし、帳簿価額との差額を減損損失に計上します。回収可能価額の見積りは、経営者による最善の見積りにより行っておりますが、回収可能価額の見積り額の見直しが必要な事象が生じた場合、当該見直しを行う事業年度及び翌事業年度以降の計算書類において、有形固定資産及び無形固定資産の減損損失の金額に影響を与える可能性があります。

6. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	11,189千円
(2) 自己信託により流動化した債権等は次のとおりであります。	
売掛金	217,542千円
現金及び預金	82,457千円
合計	300,000千円
(注)流動化した債権等は金融取引として処理しており、 対応する債務300,000千円は短期借入金に計上されております。	
(3) 関係会社に対する金銭債権及び債務	
短期金銭債務	39,516千円
(4) 取締役に対する金銭債権及び債務	
短期金銭債権	8,353千円

7. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高	
営業費用	296,776千円

(2) 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失 (千円)
本社 (東京都港区)	事業所用設備	工具、器具及び備品	3,155

当社は、単一事業である事業セグメントを基礎としてグルーピングを行っております。

当事業年度において「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の有形固定資産及び無形固定資産について、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなると判断し、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。この結果、当該減少額を減損損失（3,155千円）として特別損失に計上いたしました。

なお、回収可能価額は使用価値により算定しておりますが、将来キャッシュ・フローの発生が見込まれないためゼロとして算定しております。

8. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度 期首の株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度 末の株式数
普通株式	26,843,560株	11,294,000株	一株	38,137,560株

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加11,294,000株は、新株予約権の行使による増加であります。

(2) 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度 期首の株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度 末の株式数
普通株式	674株	10株	一株	684株

(注) 普通株式の自己株式の増加10株は、単元未満株式の買取請求による増加であります。

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

該当事項はありません。

② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度になるもの

該当事項はありません。

(4) 当事業年度末日における新株予約権に関する事項

	第 9 回 新株予約権	第 1 1 回 新株予約権	第 1 4 回 新株予約権
目的となる株式の種類	普通株式	普通株式	普通株式
目的となる株式の数	140,000株	90,000株	85,000株
新株予約権の残高	1,260千円	2,250千円	255千円

9. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因は繰越欠損金ではありますが、全額評価性引当額を計上しているため、計上はありません。

10. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社は、資金計画に基づき、必要な資金は主に自己資金で賄っております。資金運用については短期的な預金等に限定し、デリバティブ取引は行っておりません。また、短期的な運転資金は金融機関より調達しております。

② 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

関係会社株式は、非上場の子会社株式であるため、市場価格の変動リスクはありません。

敷金及び保証金は、主に資金決済法に基づく保全措置等として、法務局へ供託しているものであり、信用リスクは無いと認識しております。

営業債務である買掛金、未払金は1年以内の支払期日であり、金融機関より調達をしております短期借入金は1年以内の支払期日であるため、流動性リスクに晒されております。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権、未収入金、敷金及び保証金について、社内規程に従い、取引先の状況を定期的に確認し、取引相手先ごとに財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

買掛金及び未払金、短期借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社は各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2025年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
敷 金 及 び 保 証 金	95,010	68,206	26,803
資産計	95,010	68,206	26,803

(注) 1. 「現金及び預金」については、現金であることから注記を省略しており、預金、売掛金、買掛金、短期借入金、未払金については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2. 投資有価証券は市場価格のない株式等であるため、上記には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当事業年度（2025年12月31日）（千円）
関係会社株式	133,580
投資有価証券 非上場株式	0
合計	133,580

3. 時価算定会計基準適用指針第24-16項の取扱いを適用しており、貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体への出資については、記載を省略しております。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当事業年度（2025年12月31日）（千円）
投資事業組合への 出資金	40,659
合計	40,659

(3) 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

①時価で貸借対照表に計上している金融商品

当事業年度（2025年12月31日）

該当事項はありません。

②時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当事業年度（2025年12月31日）

区分	時価 (千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金及び保証金	—	68,206	—	68,206
資産計	—	68,206	—	68,206

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

敷金及び保証金

その将来キャッシュ・フローを返還予定時期に基づき、国債の利回り等適切な指標で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

11. 暗号資産に関する注記

当社は、「資金決済法における暗号資産の会計処理等に関する当面の取扱い」（実務対応報告第38号 2018年3月14日）に従った会計処理を行っております。暗号資産に関する注記は以下のとおりであります。

(1) 暗号資産の貸借対照表計上額

区分	当事業年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
保有する暗号資産	111,562千円
合計	111,562千円

(2) 保有する暗号資産の種類ごとの保有数量及び連結貸借対照表計上額

① 活発な市場が存在する暗号資産

区分	当事業年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)	
ビットコイン	8BTC	111,562千円
合計	8BTC	111,562千円

② 活発な市場が存在しない暗号資産

該当事項はありません。

12. 収益認識に関する注記

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社はエンターテインメント事業の単一セグメントであり、主要な顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	当事業年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
ゲーム運営による課金収入	2,055,023
ゲーム運営による広告収入	5,023
ゲーム開発による受託収入	109,905
その他	149
顧客との契約から生じる収益	2,170,101
外部顧客への売上高	2,170,101

(2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記 (4) 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(3) 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

① 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	当事業年度
顧客との契約から生じた債権 (期首残高)	434,635
顧客との契約から生じた債権 (期末残高)	211,305
契約負債 (期首残高)	276,589
契約負債 (期末残高)	209,355

契約負債は主に、ユーザーがゲーム内課金を通して取得したゲーム内通貨のうち、期末時点において履行義務を充足していない前受金であります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。当事業年度において認識した収益の

うち、期首現在の契約負債残高に含まれていた額は276,589千円であります。

また、当事業年度において、契約負債が67,234千円減少した主な理由は、ユーザーとの契約に基づく前受金の受け取りによる減少によるものであります。

② 残存履行義務に配分した取引価格

当社において、個別の契約が1年を超える重要な取引がないため、実務上の便法を適用し、残存履行義務に関する情報の記載を省略しております。

13. 関連当事者との取引に関する注記

関係会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	事業の内容又は 職業	議決権 の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	ENISH VIETNAM CO., LTD	通信業	(所有) 直接 100	資金援助 業務委託	役務提供の 対価 (注) 1	195,705	未払金	39,318
子会社	ENISH SINGAPORE PTE. LTD.	通信業	(所有) 直接 100	資金援助 業務委託	資金の 貸付 (注) 2	36,531	流動資産 その他	39,516
					利息の 受取 (注) 2	2,985		
					役務提供の 対価 (注) 1	99,770	未払金	

(注) 1. 役務提供の対価については、人件費等の対価を勘案し、両社の協議により合理的に決定しております。

2. 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

14. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|--------------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 19円99銭 |
| (2) 1株当たり当期純損失 (△) | △44円19銭 |

15. 重要な後発事象に関する注記

(借入金の返済)

当社は、2026年1月6日付「借入金の返済完了に関するお知らせ」で開示したとおり、モルガン・スタンレー・クレジット・プロダクツ・ジャパン株式会社からの借入金300,000千円につきまして、手元資金により、2026年1月5日を返済期日として、同日付で返済を完了いたしました。

(第1回無担保普通社債の繰上償還)

当社は、償還期日2026年9月14日を期限とする300,000,000円の第1回無担保普通社債をEVO FUNDに全額割り当てておりましたが、2026年1月5日付で償還条項に基づき全額繰上償還いたしました。

- ①繰上償還する銘柄：株式会社enish第1回無担保普通社債
- ②繰上償還日：2026年1月5日
- ③繰上償還額：300,000千円
- ④繰上償還金額：各本社債の金額100円につき金100円
- ⑤繰上償還理由：第20回新株予約権の権利行使分を充当
- ⑥繰上償還による支払利息の年間減少額：0円（無利息）

(和解金の支払い)

当社は、2025年11月11日付「訴訟の解決に伴う特別損失の計上に関するお知らせ」で開示したとおり、Aptos Japan株式会社との訴訟の和解成立に基づき、2026年1月30日付で和解金88,000千円の支払を完了いたしました。

(第20回新株予約権の行使による増資)

当事業年度終了後、2026年2月12日までに第三者割当による行使価額修正条項付第20回新株予約権の一部が行使されております。その概要は以下のとおりです。

①行使された新株予約権の行使個数	51,040個
②発行した種類及び株式数	普通株式 5,104,000株
③行使価額の総額	294,528千円
④資本金増加額	147,264千円
⑤資本剰余金増加額	147,264千円

上記の結果、2026年2月12日現在の普通株式の発行済株式総数は43,241,560株、資本金は5,050,763千円、資本剰余金は5,049,763千円となっております。

計算書類に係る監査報告

独立監査人の監査報告書

2026年2月26日

株式会社enish

取締役会 御中

監査法人アリア

東京都港区

代表社員

業務執行社員

業務執行社員

公認会計士

茂木 秀俊

公認会計士

萩原 眞治

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社enishの2025年1月1日から2025年12月31日までの第17期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

継続企業の前提に関する重要な不確実性

継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、会社は、当事業年度においても、前事業年度同様、営業損失、経常損失、当期純損失を計上している状況にあることから継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。なお、当該事象又は状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。計算書類等は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は計算書類等に反映されていない。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

強調事項

重要な後発事象の注記に記載されているとおり、会社は、2026年2月12日までに第三者割当による行使価額修正条項付第20回新株予約権の一部が行使により資本金及び資本準備金が増加している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、2025年1月1日から2025年12月31日までの第17期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ①取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社において業務及び財産の状況を調査いたしました。
 - ②事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

一時会計監査人監査法人アリアの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2026年2月26日

株 式 会 社 e n i s h 監 査 役 会
常勤社外監査役 志 村 直 幸 ㊟
社 外 監 査 役 安 達 裕 ㊟
社 外 監 査 役 太 田 健 太 郎 ㊟

以 上

株主総会参考書類

第1号議案 定款一部変更の件

1. 提案の理由

今後の事業拡大及び将来の機動的な資本政策の遂行を可能とするために、現行定款第6条（発行可能株式総数）について、発行可能株式総数を現行の48,000,000株から172,000,000株に変更するものであります。

2. 変更の内容

変更の内容は次のとおりです。

（下線は変更部分を示します。）

現 行 定 款	変 更 後
第1条～第5条（条文省略） （発行可能株式総数）	第1条～第5条（現行どおり） （発行可能株式総数）
第6条 当社が発行することができる株式 の総数は、 <u>48,000,000株</u> とする。	第6条 当社が発行することができる株式 の総数は、 <u>172,000,000株</u> とする。
第7条～第45条（条文省略）	第7条～第45条（現行どおり）

第2号議案 取締役4名選任の件

取締役全員（4名）は、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。また、取締役魚屋和彦は2025年6月30日付で辞任により退任いたしました。つきましては、経営体制の安定的な継続を図るとともに、経営の迅速化および監督機能の一層の強化を目的として、次に記載の取締役4名（うち1名は社外取締役）の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	所有する当 社の株式数
1	あんとく こうへい 安徳 孝平 (1971年12月6日生)	1996年4月 (株)イエルネット取締役就任 1999年6月 ピー・アイ・エム(株)取締役 就任 2000年8月 ヤフー(株)入社 2009年5月 当社代表取締役就任 2011年6月 当社取締役就任 2011年9月 当社執行役員就任 2012年2月 当社プロダクト本部長就任 2014年3月 当社代表取締役社長就任 (現任)	936,880株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	所有する当 社の株式数
2	くもん よしゆき 公文 善之 (1974年12月26日生)	1999年6月 ピー・アイ・エム(株)取締役 就任 2000年8月 ヤフー(株)入社 2009年5月 当社代表取締役就任 2011年6月 当社取締役就任(現任) 2011年9月 当社執行役員就任(現任) 2012年2月 当社プロダクト本部副本部長 就任 2014年3月 当社プロダクト本部長就任 2020年4月 当社プロダクト開発部部长 就任 2021年4月 当社DM部門責任者 2022年4月 当社プロダクト運営部部长就任 2023年4月 当社プロダクト本部長 (現任)	1,047,280株
3	かわひら かずと 川平 一人 (1974年11月9日生)	1996年4月 (株)ゲームアーツ入社 2006年12月 (株)トイロジック入社 執行役員 2015年5月 当社入社 PMO室長 2016年7月 当社執行役員就任(現任) 2017年1月 当社技術本部長就任 2018年3月 当社取締役就任(現任) 2022年4月 当社制作部長就任 2026年2月 当社品質管理部・開発部就任 (現任)	34,200株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	所有する当 社の株式数
4	やすかわ しんいちろう 安川 新一郎 (1968年1月3日生)	1991年4月 マッキンゼー・アンド・カン パニー・ジャパン入社 1995年9月 マッキンゼー・アンド・カン パニー シカゴ事務所 1999年4月 ソフトバンク(株)入社 社長室長 2006年4月 日本テレコム(株)入社 執行役員 インターネット・データ事業 本部長 2008年10月 ソフトバンクモバイル(株)入社 執行役員法人事業推進本部本 部長 2013年4月 エス・エム・エス(株)入社 事業開発本部長 2016年1月 グレートジャーニー合同会社 代表社員 (現任) 2017年3月 当社社外監査役就任 2020年3月 (株)リブセンス社外取締役就任 (現任) 2022年3月 当社社外取締役就任 (現任) (重要な兼職の状況) グレートジャーニー合同会社代表社員 (株)リブセンス社外取締役	-

- (注) 1. 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 安川新一郎氏は、社外取締役候補者であります。
3. 当社は、安川新一郎氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定しており、同氏が原案どおり取締役役に再任された場合には、引き続き同氏を独立役員とする予定であります。
4. 安川新一郎氏は、IT分野における経営コンサルタントとしての実績や上場会社を含む他企業における勤務経験に基づく幅広く高度な見識と豊富な経験を有されており、当社の、社外監査役として2017年3月より経営の監視や適切な助言をいただきました。その見識と経験を当社の経営に反映していただくことが

期待されることから、社外取締役としての選任をお願いするものであります。安川新一郎氏は、現在当社の社外取締役であり、その在任期間は、本定時株主総会終結の時をもって4年、社外取締役に就任する前の社外監査役としての在任期間は5年であります。

5. 当社は、安川新一郎氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を、法令で定める最低責任限度額に限定する責任限定契約を締結しており、同氏が原案どおり取締役に再任された場合には、当該責任限定契約を継続する予定であります。
6. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。各候補者は、当該保険契約の被保険者に含まれており、同候補者らが原案どおり取締役に再任された場合には、引き続き当該保険契約の被保険者となります。なお、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

①補填の対象となる保険事故の概要

被保険者である役員等がその職務の執行に関し負担する法律上の損害賠償金、及び当該責任の追及に係る請求を受けることによって生じる争訟費用等の損害について補填するものです。

②保険料

株主代表訴訟担保特約条項に係る保険料については被保険者である各役員等の負担、その他の保険料については会社負担としております。

第3号議案 監査役1名選任の件

監査役太田健太郎は、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する当社の株式数
おおた けんたろう 太田 健太郎 (1963年10月13日生)	1987年4月 (株)間組 (現(株)安藤・間) 入社 2002年7月 (株)高岡屋入社 管理部長 2010年2月 (株)ニチリョク入社 経営管理部長 2011年8月 (株)ケアサービス入社 経理財務部長代理 2013年11月 同社 常勤監査役 2016年6月 同社 執行役員経理財務部長 2022年3月 当社監査役就任 (現任) 2023年1月 (株)高岡屋 取締役管理部長 (現任) (重要な兼職の状況) (株)高岡屋 取締役管理部長	-

- (注) 1. 候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 太田健太郎氏は、社外監査役候補者であります。
3. 太田健太郎氏は、過去に会社経営に関与した経験はありませんが、長年、上場会社を含む他企業の管理部門の要職を歴任し、管理部門における幅広い見識と豊富な経験を有しており、社外監査役として経営の監視や適切な助言をいただけるものとして選任をお願いするものであり、また同様の理由により、社外監査役としての職務を適切に遂行できると判断しております。
4. 太田健太郎氏は、現在当社の社外監査役であり、その在任期間は、本定時株主総会終結の時をもって4年となります。
5. 当社は、太田健太郎氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を、法令で定める最低責任限度額に限定する責任限定契約を締結しており、同氏が原案どおり監査役に再任された場合には、当該責任限定契約を継続する予定であります。

6. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。太田健太郎氏が原案どおり監査役に再任された場合には、引き続き当該保険契約の被保険者となります。なお、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

①補填の対象となる保険事故の概要

被保険者である役員等がその職務の執行に関し負担する法律上の損害賠償金、及び当該責任の追及に係る請求を受けることによって生じる争訟費用等の損害について補填するものです。

②保険料

株主代表訴訟担保特約条項に係る保険料については被保険者である各役員等の負担、その他の保険料については会社負担としております。

第4号議案 資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分の件

当社は、当事業年度末において生じている繰越欠損を解消するとともに今後の資本政策の柔軟性及び機動性を確保するために、欠損を填補し財務体質の健全化を図ることを目的として、会社法第447条第1項及び会社法第448条第1項の規定に基づき、資本金及び資本準備金の額を減少し、その他資本剰余金に振り替えるとともに、会社法第452条の規定に基づき、増加後のその他資本剰余金を繰越利益剰余金に振り替えたいと存じます。また、今回の資本金及び資本準備金の額の減少によって当社の純資産額及び発行済株式総数にも変更はありませんので、1株当たりの純資産額に変更を生じるものではありません。

1. 資本金の額の減少の内容

(1) 減少する資本金の額

資本金の額4,903,422,949円のうち4,803,422,949円を減少し、その減少額全額をその他資本剰余金に振り替え、減少後の資本金の額を100,000,000円といたします。

なお、当社が発行している新株予約権が、減資の効力発生日までに行使された場合、資本金の額及び減少後の資本金の額が変動いたします。

(2) 資本金の額の減少が効力を生ずる日

2026年5月1日

2. 資本準備金の額の減少の内容

(1) 減少する資本準備金の額

資本準備金の額4,902,422,890円の全額を減少し、その減少額全額をその他資本剰余金に振り替えを行います。

(2) 資本準備金の額の減少が効力を生ずる日

2026年5月1日

3. 剰余金の処分の内容

会社法第452条の規定に基づき、資本金及び資本準備金の額の減少の効力が生じることを条件として、その他資本剰余金を繰越利益剰余金に振り替えることで、欠損填補に充当いたします。これにより、振替後の繰越利益剰余金の額は0円となります。

(1) 減少する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 9,043,210,728円

(2) 増加する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 9,043,210,728円

第5号議案 会計監査人選任の件

当社は、2025年6月11日付で退任したゼロス有限責任監査法人に代わり、監査の継続性を確保するため、同日付で監査法人アリアを一時会計監査人として選任いたしました。本定時株主総会において、一時会計監査人である監査法人アリアを、改めて正式に会計監査人として選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の決定に基づいております。

また、監査役会が監査法人アリアを会計監査人の候補者とした理由は、同監査法人の独立性、専門性、及び一時会計監査人就任以来の職務遂行状況を十分に検討した結果、適正な監査体制が確保されていると判断したためであります。

会計監査人候補者は、次のとおりであります。

(2025年12月31日現在)

名称	監査法人アリア
主たる事務所の所在地	東京都港区浜松町1丁目30番5号
沿革	2006年5月29日設立
概要	構成人員（非常勤職員を含む） 54人 上場会社クライアント数 31社

以上

メモ

メモ

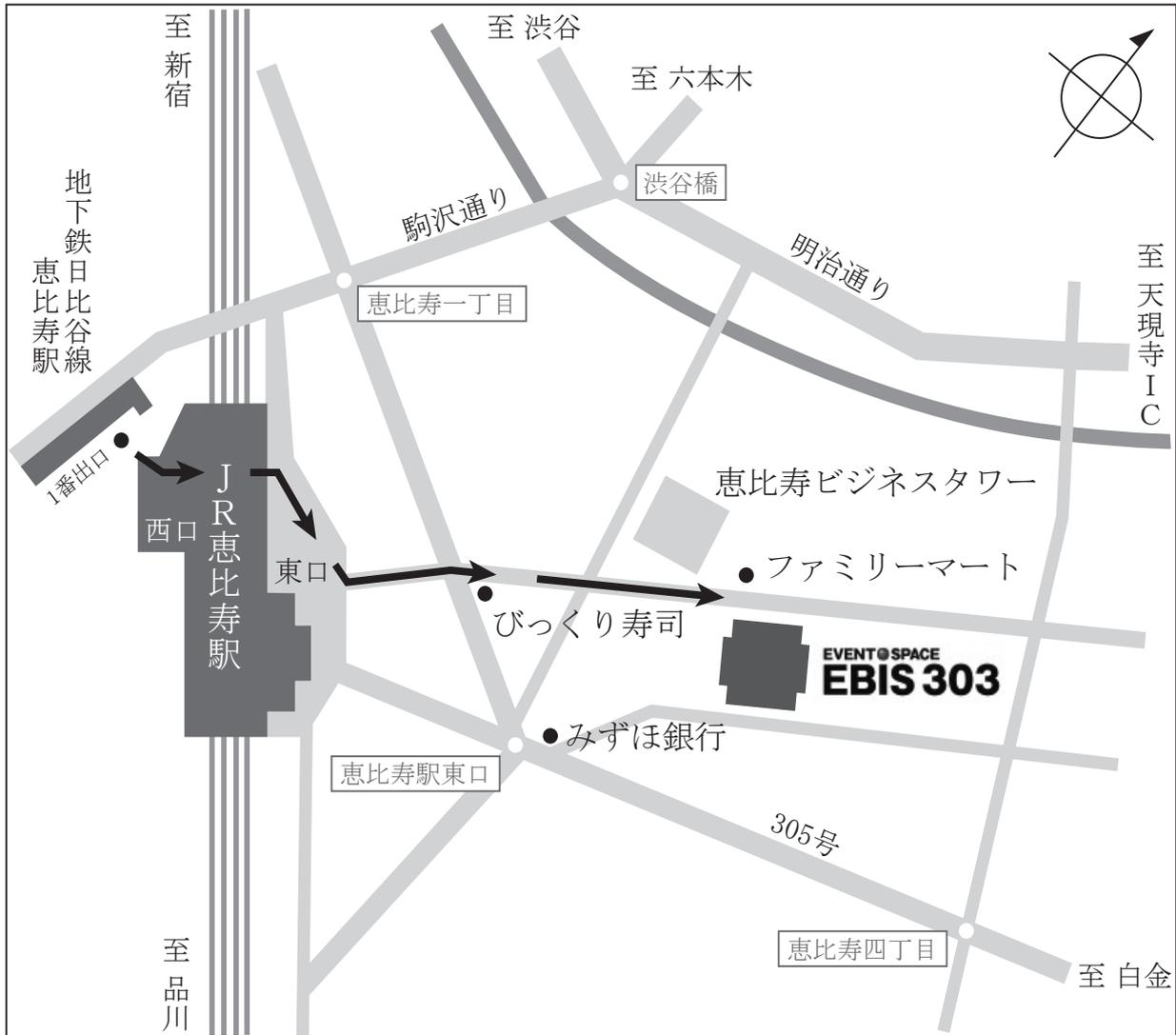
メモ

株主総会会場ご案内図

会場： 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号

イベントスペースEBiS303

カンファレンススペース5階



交通	J R 恵比寿駅	東口より	徒歩約3分
	地下鉄日比谷線恵比寿駅	1番出口より	徒歩約4分

- ・駐車場の準備はいたしていませんので、ご了承のほどお願いいたします。
- ・株主総会にご出席の株主様へのお土産の配布は取り止めさせていただいております。